



# 高校での出張授業

## ～住み続けられる街づくりと緑について～



これらの行動を通して、  
持続可能な社会づくりに  
貢献します。

活動時期 2020年12月9日

活動場所 東京都立芝商業高等学校（東京都港区海岸）



都立芝商業高校の1年生 約200名に向けて、「住み続けられるまちづくりと緑について」をテーマに授業を行いました。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、例年は企業を訪問してのインターシップを行っていた授業を前半に講義を聞き後半にワークショップを行う形式に変更し開催した授業です。前半は緑が持つ力や価値が社会にどのように関わりを持っているかなどを伝え後半は高校生に3～4名程度のグループを作ってもらい、SDGs 11番目のターゲットである「住み続けられるまちづくりを」について話合ってもらいました。

### 活動の目的

造園建設業のように自分の知らない仕事があり、様々な人たちの仕事で世の中は回っているということが伝われば良いと思い講義しました。また指定管理者として運営管理している公園で利用が少ない世代である高校生に対して、若者が利用したくなる公園にははどんな機能やサービスが必要か調査することも目的の一つでした。

### 取り組み・成果

高校生からは「自分の身の回りにはたくさんの緑があることに気づいた」「都市の緑は人々の気持ちを豊かにするものであると思った」という意見があり、自分が知らない世界を知りそして今後の進路を考える上でも貴重な機会になったのではないかと感じました。公園に対してのニーズはWi-Fiがほしいと回答している生徒が多いことが印象的でした。

### 今後の目標・課題

今後も地域の方に造園建設業の仕事について理解を深めていただくとともに、都市における緑地の機能や効果を知っていただくことができるような活動を継続していきたいと考えています。また今回高校生を対象にしたアンケートの結果を参考に多様な世代の集う公園となるよう指定管理者として試行錯誤していきたいと思います。

- 1 体育館に芝商業高校の1年生約200人が集まりました。
- 2 ワークショップでは街に必要なものは何か、考えてもらいました。
- 3 講師は岩本と中島の2名で行いました。



2021.12発行



# 桂川ウェルネスパーク

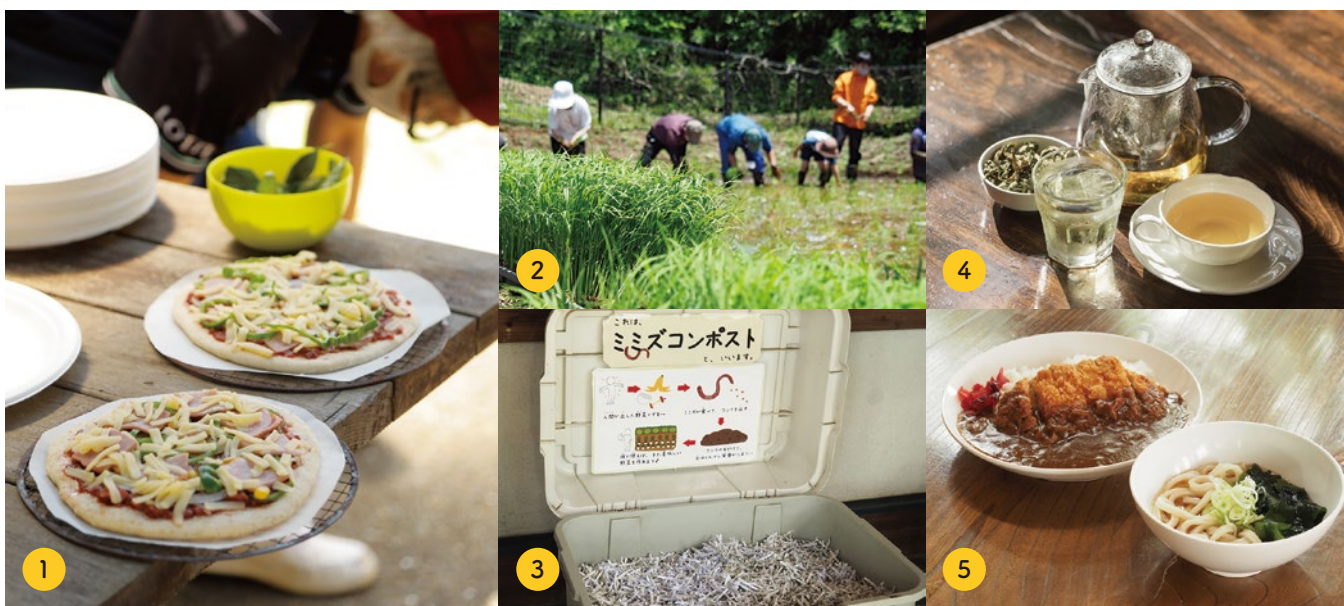
## 食育イベントの展開と食品ロス削減の取り組み



これらの行動を通して、  
持続可能な社会づくりに  
貢献します。

活動時期 2009年4月～現在

活動場所 桂川ウェルネスパーク(山梨県大月市富浜町)



桂川ウェルネスパークでは年間を通して農作物の育成、収穫、加工体験を行っています。「お米育て隊」や「たくあん学校」など作物の育成から加工、食べるまでを体験する通年型のイベントは、食の大切さを伝える機会を創出しています。また、農林業体験の過程で発生する農業残渣や野菜の不可食部は、堆肥や家禽の飼料にすることで畑に還元し、廃棄量を最小限に抑えています。桂川うどんセンターでも、メニューに冷凍食品など長期保存が可能な食材を取り入れることで、仕込みすぎや賞味期限切れによる食材の廃棄を最小限に抑えています。公園一丸となって食品ロスの削減に取り組んでいます。

### 活動の目的

プログラムを通して自ら食糧生産を行うことで、生産者への感謝と食のありがたみを学ぶ場を提供します。また、水田や雑木林の生き物との触れ合いを通して、人間の営みと自然環境の関係を学ぶ機会を提供します。桂川うどんセンターにおいては、材料廃棄による減収を最小限に抑えるとともに、里山ぐらしを体現する公園に併設されたレストランとして、イメージアップを図ります。

### 取り組み・成果

たくあん漬けなど、普段口にしていない食べ物の加工過程を知って感動する参加者も多いです。また、自ら収穫した作物や、育成から加工まで行った加工品は大変美味しく、「子供が野菜をとっても好きになった」といった声も多く聞かれます。子供が食に愛着を持つきっかけを提供し、ご家族にとっても満足度の高いプログラムを展開することができています。

### 今後の目標・課題

公園で学んだ食の大切さを自分事にして、まずはご家庭で実践していただきたいです。例えば、食べ物を残さず食べる、店頭では賞味期限が近づいている商品を選ぶなど、食を無駄にしない意識を一人でも多くの人に波及させていきたいと考えております。さらには世界レベルでの食に関する問題に関心を持つきっかけになればよいと考えております。

- 1 石窯ピザ焼き体験は最も人気のイベント。チーズとベーコン以外は全て公園産の材料を使用しています。
- 2 「お米育て隊」田起こし～稲の育成～収穫～食べるまでを体験できる通年型の農業体験プログラム。
- 3 「ミミズコンポスト」残渣はゴミではなく、循環する資源であるという意識づけをする展示にもなっています。
- 4 公園産ハーブを使用したハーブティー。乾燥ハーブも長期保存が可能です。
- 5 冷凍食品といっても侮ることなかれ！？関西風だしのおうどんや肉厚で食べ応えバッチリなトンカツは大好評です。



2021.12発行

活動実施会社 株式会社アメニス山梨



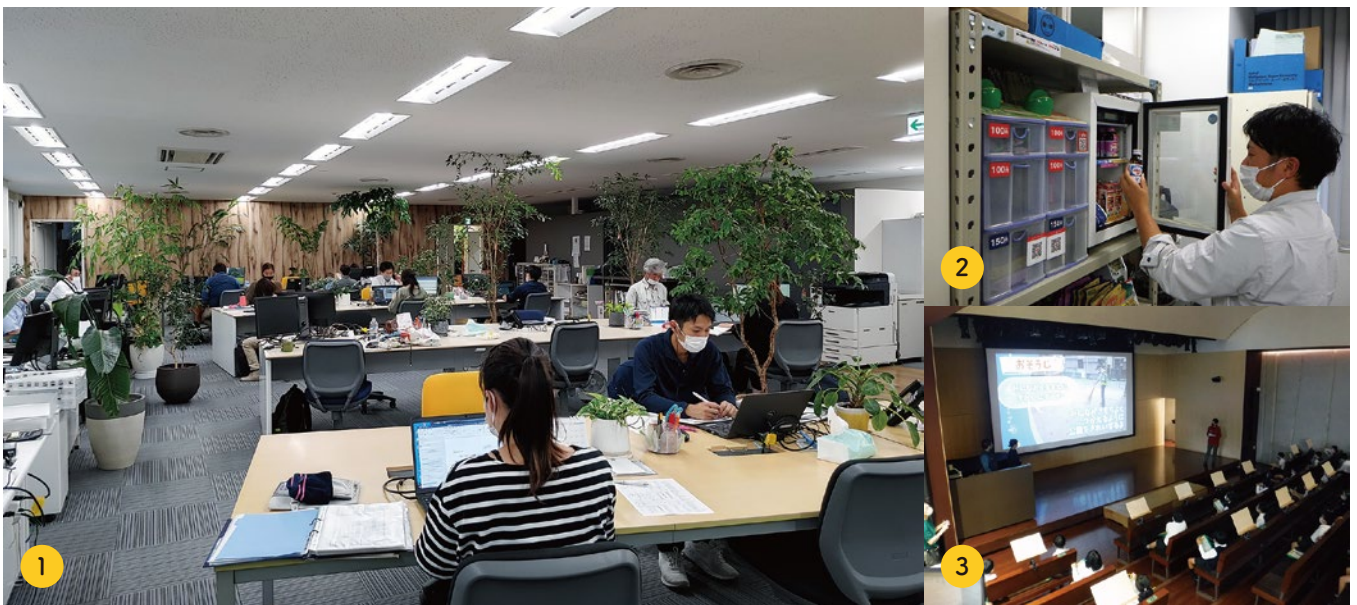
# 生活と仕事の充実を目指す 港区ワーク・ライフ・バランス推進企業認定



これらの行動を通して、  
持続可能な社会づくりに  
貢献します。

活動時期 2011年9月～（2021年10月に認定更新）

活動場所 太陽スポーツ施設株式会社・株式会社グリーバルの各事業所（東京都港区高輪・芝）他



日比谷アメニスグループでは、社員の生活・仕事の両方の充実を目指し、ワークライフバランス（以下、WLB）に関する各種取り組みを実施しています。また、グループ会社の太陽スポーツ施設とグリーバルは、WLBに積極的に取り組む中小企業として、港区ワーク・ライフ・バランス推進企業に2011年から認定され、更新を続けています。太陽スポーツは働きやすい職場環境づくりの分野で、グリーバルは働きやすい職場環境づくり分野・地域活動支援分野・子育て支援分野の3分野で認定されています。

## 活動の目的

太陽スポーツ施設は、健康経営をテーマに社員のヘルスケアや健康増進について経営的な視点で考え、その実践のひとつとして WLB の充実に取り組んでいます。グリーバルは One and Only のビジョンのもと、唯一無二の価値の提供に繋げることを目的に、職場環境改善による生産性向上や、社員の地域活動・子育ての支援を行っています。

## 取り組み・成果

太陽スポーツ施設は、グループ会社間のWLB関連プロジェクトへの積極参加や、有休取得率の向上、オフィスコンビニ導入等を行いました。グリーバルは、バイオフィリックデザインを取り入れたオフィスによる働きやすい職場環境づくりを、地域の学校への教育活動で地域活動支援を、産休・育休明け社員の復帰に向けた業務調整の強化等で子育て支援を行いました。

## 今後の目標・課題

日比谷アメニスグループでは、各社単独での取り組みのほか、各社の社員が参加する働きかた働きがい改革特別プロジェクトを立ち上げ、グループ会社間で連携し進める活動も行っています。多様な社員の意見・価値観を取り入れながら、各種施策の検討を進めており、WLBに関する取り組みのさらなる充実を目指しています。

- 1 バイオフィリックデザインを取り入れたグリーバルのオフィス。身近に自然の要素がある事で生産性や創造性が向上するとの調査結果があります。
- 2 太陽スポーツ施設では社員のアイデアをもとにオフィスコンビニを設置。疲れたときに栄養補給ができるようにしています。
- 3 グリーバルでは地域の小学校の出張授業で、公園管理の仕事を紹介しました。地域貢献活動を積極的に支援しています。



2021.12発行



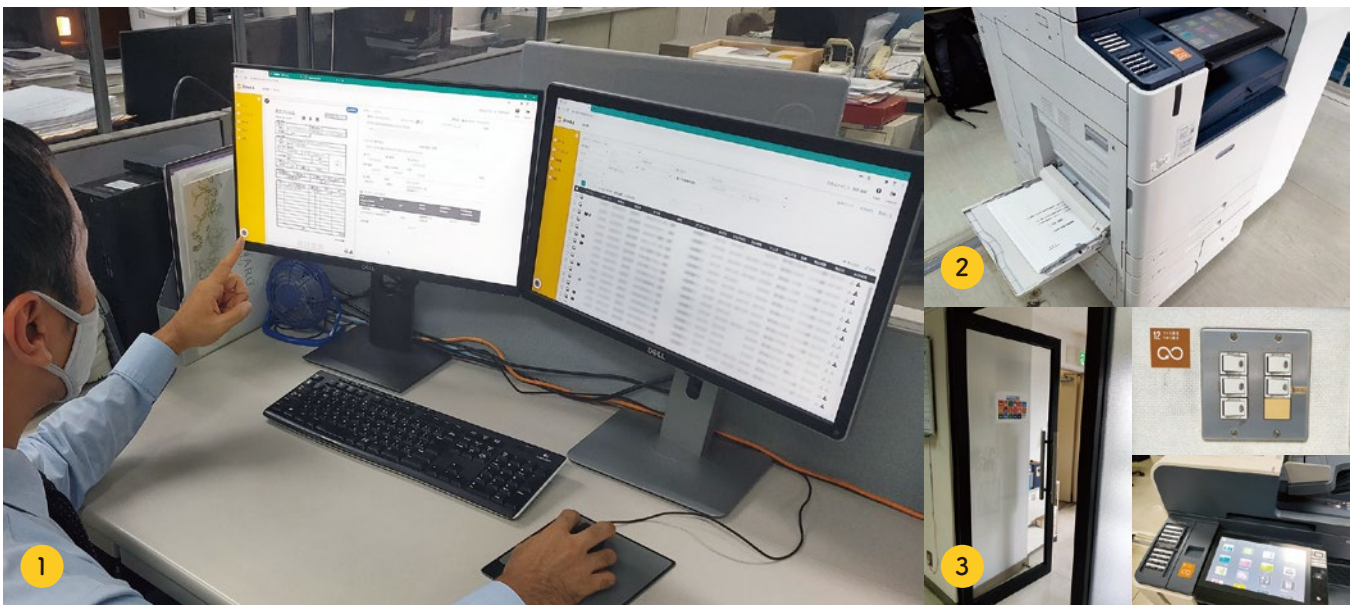
# ペーパーレス化の推進で オフィスでも環境貢献



これらの行動を通して、  
持続可能な社会づくりに  
貢献します。

活動時期 2021年4月（請求書受付システムの導入時期）

活動場所 日比谷アメニスグループの各事業所



日比谷アメニスグループでは、みどりに直接関わる造園施工や公園管理運営の部門が仕事を通じて社会・環境貢献をしていくほか、事務系の部門における環境貢献の取り組みも推進しています。近年では各種事務手続きをペーパーレス化するシステムを積極的に導入し、紙の使用量を減らしています。日比谷アメニスグループ内の全ての部門や関連会社で、年度ごとの事業活動を通じたSDGsに関する目標を設定することも実施しており、グループ全体で力を合わせながら、SDGsに対する貢献度を高める取り組みを推進しています。

## 活動の目的

オフィスにおける業務を進めるにあたり、請求書・精算書・労務管理関連書類等、様々な書類を使用しますが、事業の拡大に伴いこれらの書類も増加してきました。紙の使用は、木材を切り出す際の森林縮小や、コピー用紙の製造過程でのCO2発生など、少なからず環境への負担があり、これらの負担の減少を目指しました。

## 取り組み・成果

これまで経費精算や勤怠・労務管理等のシステムを導入し、ペーパーレス化を進めてきましたが、2021年には特に紙の使用量の多い手続きの一つ、請求書受付でもシステムを導入しペーパーレス化しました。取引先から送られてくる年間約 25,000 枚の請求関連書類の紙使用を減らすとともに、書類の発送・受付や金額の入力作業等も無くなり、業務の効率化を図ることができました。

## 今後の目標・課題

今後も業務におけるシステム導入を積極的に進めペーパーレス化の推進を継続していきます。システム化できない業務においても、紙の使用の際の裏紙使用や、使用後のリサイクル処理なども引き続き徹底していきます。業務効率化により発生した余剰の時間を活用して、コア業務への注力や、ワークライフバランスの改善等を行うことも進めていきます。

- 1 請求書受付システムの使用状況。データとして送られてきた請求書を画面上でチェックし金額入力も不要。紙の使用料を減らしつつ業務効率化も図れます。
- 2 裏紙の使用や、使用後のリサイクル処理など、紙を使用する際の工夫も行っています。
- 3 オフィスの入り口や各種機器にSDGsのアイコンを貼り付け、普段の意識づけの取り組みも行っています。

